Philologie de la civilisation japonaise

Cours du 22 janvier 2013

Les poèmes « religieux » du Kokin-shû

- 520
  こむ世にもはや成りななむ目の前に
  つれなき人を昔とおもはむ

- 513

あさなあさな立つ河霧のそらにのみ
うきて思ひのある世なりけり

- 類聚名義抄　*Ruiju myôgi-shô*
- 933
- 読人しらず
- 題しらず
- 世中はなにかつねなるあすかがは
  きのふのふちぞけふはせになる
- 桑田變成海 / 桑田變滄海（劉希夷）
- 金雲翹

- 在原業平 Ariwara no Narihira (825-880)
- 伊勢物語 *Ise-monogatari*
- 861

なりひらの朝臣

やまひしてよわくなりにける時よめる

つひにゆくみちとはかねてききしかど

きのふけふとはおもはざりしを

- 号日華光如来
  続後撰
  俊成 Shunzei (1114-1204)
- 424

  行末の花の光の名をきくに
  兼てそ春にあふ心地する

- 934
  いく世しもあらじわが身をなぞもかく
  あまのかるもに思ひみだるる
- 藻　（懐風藻）

- 942
  世中は夢かうつつかうつつとも
  夢ともしらず有りてなければ
- 選子内親王
  かげろふの有るかなきかの世の中に
  われあるものとたれ頼みけん

- 或見菩薩，而作比丘，獨處閑靜，樂誦經典。
  又見菩薩，勇猛精進，入於深山，思惟佛道。
- 937

  をののさだき 小野貞樹

  かひのかみに侍りける時、京へまかりのぼりける人 につかはしける

宮こ人いかにととはば山たかみ

はれぬくもゐにわぶとこたへよ

- 芙蓉楼送辛漸　　王昌齢 Wang Changling / Ô Shôrei

洛陽親友如相問
一片氷心在玉壺

- 944

山里は物のわびしき事こそあれ
世のうきよりはすみよかりけり

- 947
  そせい 素性

いづこにか世をばいとはむ
　　心こそのにも山にもまどふべらなれ

- 厭世　*ensei*
- 法相宗　*hossô-shû*
- 唯識　*yuishiki*

- 950

みよしのの山のあなたにやどもがな
世のうき時のかくれがにせむ

- 952

いかならむ巌の中にすまばかは
世のうき事のきこえこざらむ

- 956

凡河内躬恒　Ôshikôchi no Mitsune

山のほうしのもとへつかはしける

世をすてて山にいる人山にても
猶うき時はいづちゆくらむ

- 1100

藤原敏行朝臣 Fujiwara no Toshiyuki

冬の賀茂のまつりのうた

ちはやぶるかものやしろのひめこまつ
よろづ世ふともいろはかはらじ

- 1069

おほなほびのうた　（大直日）

あたらしき年の始にかくしこそ
　　ちとせをかねてたのしきをつめ

御薪

- 1070

　ふるきやまとまひのうた

しもとゆふかづらき山にふる雪の

　　まなく時なくおもほゆるかな

大嘗祭、大嘗会

葛城山

- 採物の歌
- 日霊女の歌
- 返し物の歌
- 1074

神垣の三室の山の榊葉は
神の御前にしげりあひにけり

- 1080

ささのくまひのくま河に駒とめて
しばし水かへかげをだに見む

さ檜の隈＝檜前（ひのくま）

- 1081

青柳を片糸によりて鶯の
ぬふてふ笠は梅のはながさ

- 賀の歌
- 348
- 僧正遍昭

仁和のみかどのみこにおはしましける時に、御をば のやそぢの賀にしろかねをつゑにつくれりけるを見て、かの御をばにかはりてよみける

ちはやぶる神やきりけむつくからに
ちとせの坂もこえぬべらなり

- 素性
- 353

いにしへにありきあらずはしらねども
ちとせのためし君にはじめむ

- 356

良岑経也がよそぢの賀にむすめにかはりてよみ侍りける

よろづ世を松にぞ君をいはひつる
ちとせのかげにすまむと思へば